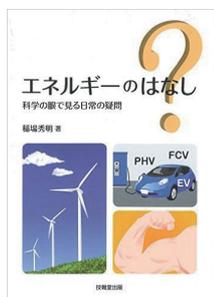


【 書 評 】

エネルギーのはなし
科学の眼で見る日常の疑問

稲場 秀明：著

技報堂出版

ISBN-10: 4765544796

ISBN-13: 978-4765544795

現在のライフスタイルはエネルギー大量使用が前提となっている。しかしながら、その維持のためにはエネルギーの発生法・使用法の見直しが必要となっていることは論を待たない。「熱測定学会」の会員諸氏にも熱・エネルギーを研究ターゲットとしており、世界が直面しているエネルギー問題に対して、どのような貢献が出来るかを考えている方も多いことと思う。

エネルギー問題の解決には研究者ばかりでなく、ユーザーである一般の方々の協力も必要不可欠である。協力を得るためには、科学的なバックグラウンドを十分に持っていない一般の方々に対して、エネルギー問題の正しい知識を正確に伝えることが必要である。また細かい理屈は後回しになっても、エネルギー問題に関する方針の提案・主張を時間をかけず、明快に解りやすく伝えることが必要であろう。

本書は「企業」「大学」で「熱測定」「材料化学」「エネルギー分野」で活発な研究を実施されてきた稲場秀明先生が、「エネルギー問題」について正確な知識を一般の方にも解りやすく伝えることに挑戦したものである。エネルギー問題のベースとなる熱力学の簡単な解説である「序章」から始まって、「化石燃料」「発電」「新エネルギー」などのエネルギー発生、「送電と配電」「エネルギー貯蔵」などのエネルギー輸送・供給、「自動車」「環境」「生物とエネルギー」などのエネルギー使用にわたって、丁寧な調査に基づき、現状をまとめてある。また「エネルギーの将来」についても予想および指針の提案がなされている。各項目は各々見開き2ページに簡潔にまとめられており、さらに項目ごとに内容が「まとめ」の項に要約されている。さすがに熱力学のベースの部分をおの方法で解説するにあたっては非常に苦勞されている。しかしながら本論の部分では「正確に、解りやすく、時間をかけずに」説明することに成功していると評価できる。取り急ぎ、目次を見て興味のあるテーマを順番に読むことができることも可能である。

一般の方々への啓蒙書として優れているのみならず、エネルギー問題の研究者として第一歩を歩みだした学生たちにも、「何のために研究をやるのか?」といった根幹の部分の知識を得られる書籍として推薦できる。

(日本大学 橋本 拓也)